

平成31年度 社会福祉法人ひつじ事業報告

天皇の退位に伴い平成の年号は31年4月までとなり、5月からは令和となった。だから平成31年度事業報告と書くよりは令和1年事業報告と書く方が状況には馴染むかもしれない。オリンピックまであと2年が表示されカウントダウンが始まった。国会では、国民の多くが、所得が増えたという生活実感を持っていないと答えているにも拘らず、10月には予定通り消費税が10%にすることを決めた。僅かな富裕層に対して圧倒的多数の国民が生活不安を抱えているというのに。アメリカでは、アメリカ第一主義を声高に唱えるトランプ大統領が中国相手に貿易不均衡を是正すると、中国の輸入品に関税をかけ始めた。ヨーロッパ諸国では、極右と呼ばれる人たちの支持率が急激に増え始め、EU離脱を決めたイギリスが果たしてこの難局を乗り越えられるのか、世界中の目がこの一点に注がれている。そんな中、中国武漢から始まった新型コロナウイルスはあっという間にヨーロッパからアメリカそして全世界へと、感染拡大しパンデミックの終息はまだ見えていない。もちろん日本もその渦中にある。14世紀に全世界に感染したペストによる死亡者は3,000万人、終息までに30年かかったと言われている。1901年にはスペイン風邪が世界中に感染の猛威を振るい4,000万人の人が亡くなった。人類の歴史を辿れば、100年から数百年の時間が経つとウイルスの進化とホモサピエンスとの進化には何処かで交差する接点が生まれるのであろう。新型コロナの感染が人の生活に与える影響は計り知れず、我々人間が経済と呼んでいる社会経済活動の「在り方」に根源的な問いを投げかけられているのかもしれない。

この一年、平成31年度と言う令和に繋がる年度では、余りにも多くの出来事が起き、しかもそれは、国民である私たち一人一人の生活を根底から揺さぶるには十分以上の経験や体験をすることになったと言える。特にコロナウイルス感染の危険を感じながらマスク着用と手の洗浄を怠らず、身を小さくして、日常生活を淡々と維持継続すること、それが最大にして最強の感染予防対策となって現在も継続中である。誰もが一生忘れないだろう。

私たちの事業は、精神保健福祉領域で問題を抱える人となり、学校現場や職場で不適応や精神失調を起こし集団参加が困難となって不登校、家庭内暴力、社会的引きこもり等の問題行動が始まりそれらの改善と将来目標を持って生活を切り開いていくための生活支援を行うことだと心得ている。しかし、ここ最近特に強く感じるようになったのは、利用者の孤立と孤独感を内に強く秘めるようになったことである。しかもこれは利用者にもみ特有に起きるのではなく、利用者、職員共に、個々の人間の心の内に起きるようになって、利用者、職員共に人間的な豊かな交流を通し切磋琢磨し生活力強化に求められる、いわゆる「常識」を身に付けていくことを利用者だけの努力だけではなく、職員共々が協力し合って、その実現を果たしていこうと考えてきたのであるが、共に協力することよりも、人と人との繋がりが薄らいでいき、利用者、職員共に孤立化が始まったと見えることである。世界規模で起きるグローバリゼーションの反作用として起きるべく起きていると見做すことが、様々な意見があることは承知しているが、正当妥当かつ公平な見方だと思う。私たちホモサピエンスと呼ばれる種が辿った進化の道は、原始共産社会の時からつい最近まで村落共同体においても「分かち合い、助け合い、協力し合う」ことを自明とし人と人との繋がりを「人間の生き方そのもの」としてきたのが近代化と共に、個人の能力拡張とその実践がその人自身の生活の富を得ることの方法と手段に取って代わって以来、現代ではその能力発揮の「多様性」は、人と人との繋がりに求めるのではなく、それぞれの人自身である個人に対して求められるようになってより加速度が付いたと言える。能力を発揮できる人とそうでない人との差は、今日では明確に「富裕層」と「下層社会で暮らす人」とに分断され、なおかつ「下層社会で暮らす人」は生活力を身に付けるための教育の機会に恵まれないことが多く、その結果が、人と人が助け合うことさえもそのやり方を教わり学習されないまま孤立化の道を進むことになったと言っているだろう。

自立という言葉はとても便利に使われる言葉である。不適応や精神失調などの問題を抱えることになった人たちは、順調に発達成長し、思春期を迎え、将来職業的意味での興味関心の実現を果たし社会人となって生産的活動を共に行う人間となって社会参加していくはずの道のどこかで躓き、

未だ「自立」の出来ない人たちである。その人たちを対象に、その人たちに向かって、人間に等しく求められることは、「自立」することだと伝えながら、その自立に向かっての道を利用者一人で歩かせるのではなく、職員が隣人として、良きコーチとして、一緒に試行錯誤しながらその道を共に歩むことが生活支援である。ところが現代という潮流で起きることは、利用者だけでなく、職員も、個人としての強化を求め続けられるので、職員同士の間でも分断は進むことになった。これが大状況で個人の能力強化を求めるが故に起きる「反相互扶助、反相互支援」ということである。

私たちの法人は、敢えて承知で行っているのであるが、職員の多くが発達障害と言う診断名が付かずとも、発達障害の特性色濃く持っている人たちの集まりだということである。どの事業所を見ても、あの人もこの人も、というのが現状だから、定型発達をした人たちとは異なる「繊細さ」と「敏感さ」は際立っていることが多く、元々、「真面目」で「正直者」で「一生懸命」で「熱心」だと言われることが多いが「自己中心性」が高いため、仕事とは人のために行うことを常にすることに対し、「自身の満足」、「自身が納得すること」が内心優先されていることの方が多いうという特性を持っている。総じて、自身の緊張の高さを自覚されることが殆どないので、「疲れ果て精魂尽きる」前に、苛々し、夜眠れなくなったり眠れるが眠りが浅くなったりすることが有っても頑張り通してしまうという頑張り屋でもある。これらは単なる特徴に過ぎないが、一番厄介なのが、人とのやり取り、コミュニケーションのところで齟齬が生まれやすいということである。ところが、このコミュニケーションは、遣り取りしている雰囲気の中で互いにそれを感じ汲み取ることを常に行うことになるので、「話し手」が、「言葉」と「感情」を微妙に混ぜ合わせ「聞き手」の反応を見ながら、伝わったかどうか注意を払い確かめながら話を進めない、「話し手」が伝えられないどころか「聞き手」も、何を言われているのか分からないということが起こり易い。発達障害の特性を誰しもが多少は持っているものではあるが、その特性が色濃くなると、人生早期から発達段階ごとに積み重ねられ経験的に学習されて行く「その瞬間に起きる雰囲気」について、それをどのようなニュアンスのことであったのかを感じ取って（知覚し）、既にその場で起きている雰囲気と繋がる一連のことであるのかどうかを（認知し）、関係があると分かると（認識し）、どう返事するなり対応するのかを決める（判断）することになるが、この（認知）のところで、「意味するところの意味」を受止められないため字義的な理解に留まってしまう。「意味するところの意味」とは、字義的に表現された言語そのものに関連する「多様な在り方」にまで発展しないため、気持ち伝わらないということが起きる。こうした発達障害の特性を色濃く持っていればいる程、こうした特性をまずは知ること、そして受け入れること、さらに理解すること、そして足りないこと（定型発達の人たちは、既に成長発達過程でその年齢に合わせて取り入れていく感覚を、人間共通の共通感覚として身に付け社会参加をして来ているので、遣り取りすると、この共通感覚が身についていないということに直面するはずである。）を根気強く学んでいく必要があると考えている。これは必要であると同時に、発達障害を持つ人たちへの認知行動療法的接近を利用者と職員とが一緒に取組まなくてはならない課題だと考えている。

● 理事会・評議員会開催

開催日	出席数/理事総数 出席数/評議員総数	議題
R1.5.30 (理事会①)	5/6 監事 2/2	① 平成 30 年度事業報告について ② 平成 30 年度決算報告について ③ 積立金について ④ 苦情解決第三者委員の選任について ⑤ 不動産売買契約締結について ⑥ 役員の選任について ⑦ 諸規定について ⑧ 定時評議員会の招集について ⑨ 報告事項

R1.6.14 (評議員会①)	6/7 監事 2/2	① 平成30年度決算報告について ② 理事監事の選任について ③ 役員等報酬及び費用弁償に関する規程について ④ 平成30年度事業報告について ⑤ 不動産売買契約締結について ⑥ 報告事項
R1.6.14 (理事会②)	6/6 監事 2/2	① 理事長の選任について
R1.7.28 (理事会③)	書面	① 借入について
R1.11.10 (理事会④)	書面	① 評議員会の開催について
R1.12.3 (理事会⑤)	6/6 監事 1/2	① 平成31年度中間事業報告、決算報告 ② 平成31年度第1次資金収支補正予算書(案)について ③ 運営規定の変更について ④ 報告事項
R1.12.3 (評議員会②)	6/7 監事 1/2	① 平成31年度中間事業報告、決算報告 ② 平成31年度第1次資金収支補正予算書(案)について ③ 運営規定の変更について ④ 報告事項
R2.1.10 (理事会⑥)	書面	① 施設長の選任について ② 評議員候補者について
R2.2.29 (理事会⑦)	書面	① 評議員会の開催について
R2.3.23 (理事会⑧)	5/7 監事 2/2	① 平成31年度最終補正予算(案)について ② 令和2年度事業計画、当初予算に(案)について ③ 諸規定の変更について ④ 積立金について ⑤ 苦情解決第三者委員の選任 ⑥ 借入金について ⑦ 報告事項
R2.3.23 (評議員会④)	5/7 監事 2/2	① 平成31年度最終補正予算(案)について ② 令和2年度事業計画、当初予算に(案)について ③ 諸規定の変更について ④ 積立金について ⑤ 苦情解決第三者委員の選任 ⑥ 借入金について ⑦ 報告事項

● 評議員選任解任委員会開催

令和2年2月6日

● 苦情解決報告

なし

● 施設長会議

毎月2回開催(第2、第4水曜日夕方)

障害福祉サービス事業

事業所名：学舎いろいろ（就労B）・ぼちぼち（生活介護）

1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市見付 5883-5 磐田市豊浜 424-6
- (2) 種別 就労継続支援（B型）、日中一時支援 生活介護
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労継続B型 14名、生活介護 6名）
- (5) 規模 建築面積 78.66㎡ 木造2階建 建築面積 46.69㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤9名

2. 事業実施状況 ※下段（ ）内は昨年度の実績

	就労継続B(14)	生活介護(6)	日中一時
開所日数	312日	312日	312日
登録者数	21人	6人	
1日あたりの平均利用者数	11.7人 (11.4)	2.4人 (4.2)	0.5人
平均工賃(月額)	5,850円 (6,038)	406円	175円

3. 活動の成果と今後の課題

（生活介護事業）

利用者が1名退所し、新しく1名が利用開始しました。初めて施設利用される方には、まず生活リズムを整えることから始め、集団生活に慣れていただくようにしました。

生活介護の次のステップを目指す方には、作業体験の機会を提供しました。取り組みが作業報酬として自分にかえてくることで作業意欲の向上がみられ始めました。

今後の課題は、利用者ができること・得意なことを活かした自主製品を開発することです。個々に寄り添った丁寧な対応を心がけたいと思います。

（就労継続支援B型事業）

内職作業量の調整を行い、作業に追われる息苦しさの空気はなくなりました。

従来より外作業を増やし、地域で活動する機会を提供しています。体力や集中力の持続が難しいため敬遠する方もいらっしゃいますが、続けていきたい活動です。

今後の課題としては、作業場と休養スペースの確保です。ゆったり過ごしたい方にとっては、長居できないという面があります。安心して過ごせる空間づくりのために、利用者と職員が意見を交わせる場でありたいと思います。

事業所名：たんぽぽ共同作業所

1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市福田中島 138
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型、日中一時
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行6名、就労継続B型14名）
- (5) 規模 建築面積 128.35㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤7名

2. 事業実施状況

	就労移行(6)	就労継続B(14)	日中一時
開所日数	325日	325日	325日
登録者数	5人	27人	

1日あたりの平均利用者数	3.4人 (4.0)	15.9人 (15.1)	2.8人 (2.9)
平均工賃（月額）	13,483円 (13,737)	12,341円 (14,105)	5,891円 (5,258)

3. 活動の成果と今後の課題

日々変化する毎日の中で人間関係を構築し、維持していくことは、発達障害の特性を持った利用者にとってなかなか根気のいる作業です。相手を理解し、自らの感情をコントロールすること、そのために自分自身の特性をよく知り、他者の特性との違いを受け入れること、この一年はさまざまに起こる諍いやすれ違いを利用し、互いの歯車をかみ合わせていく努力ができました。結果として利用者はそれぞれ寛容さを持ち、悩み傷つきながらも成長し、自らの居場所としてたんぼぼを利用することができたと思います。作業についてもそれぞれの特性を皆が理解し、自然に助け合いながら進めることができています。

29年度、30年度の就労者については、全員が就労を継続しています。利用者自身の力を損なうことのないよう見守りを行っています。

内職元受事業（機械部品の梱包作業）について、法人内の作業所への分配量を増やし、収入は倍増しています。本体施設を利用する利用者との温度差の解消を目指します。

今後について、昨年度に引き続き職員の支援技術の向上が課題として残ります。職員自身も様々な特性を持っています。利用者に対しても職員同士であっても、同じ人間として認め合い、互いに互いを糧として成長していきたいと考えています。

・就労移行支援

新規就労者はありませんでしたが、それぞれに準備を重ね、社会性の向上、生活の安定を目指し、仕事をするという意識をもって作業を行いました。

・就労継続支援B型

日常を上手に過ごすことができないために、ひとつところに長く通い続けることが苦手な利用者が、それぞれ自分自身をやりくりしてここにいたいと思い、努力することができました。そのために職員も利用者の思いや状況を確認し、察し、適切な配慮を共有し実行しました。病気や障害を持ちながら仕事に集中することの大変さを、利用者本人が理解できるよう心掛けました。今何が起きている、それはどうして起こったのか、利用者自身がどういう状況になってほしいと思うのか、どうすればそれが実現するのか、言葉だけでは理解が難しいことも、行動や表情、雰囲気などを総合し、支援会議で検討し、実践し、評価、修正、再実践を繰り返し、全体として心地よく過ごせる場を提供できたと思います。

事業所名：学び舎あいまいもこ

1. 事業所概要

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| (1) 所在地 | 袋井市久能 2497-12 |
| (2) 種別 | 就労移行支援事業・就労継続支援B型事業・日中一時支援・就労定着支援 |
| (3) 営業日 | 月曜日～土曜日 9:00～16:00 |
| (4) 定員 | 20名（就労移行支援6名・就労継続支援B型14名） |
| (5) 規模 | 木造2階建て 314.76㎡
木造平屋建て 58.38㎡（厨房棟） |
| (6) 職員 | 常勤10名、非常勤3名 |

2. 事業実施状況

	就労移行(6)	就労継続B型(14)	日中一時
開所日数	309日	325日	325日
登録者数	5人	21人	10人
1日あたりの平均利用者数	2.6人	12.2人	2.2人

	(2.3)	(7.8)	(5.4)
平均工賃（月額）	6,353円 (3,353)	6,546円 (3,612)	1,183円 (1,999)

3. 活動の成果と今後の課題

平成31年4月1日から、就労継続支援B(14名)と就労移行支援(6名)の2事業の事業運営をすることになって1年が過ぎた。猫も杓子も就労を希望する巷の志向変更に抗することが出来なかったからである。基本的な生活を身に付けるための生活訓練の必要性はかつてよりも益々高まってきたというのに、である。「学び舎あいまいもこ」の発達障害を持つ人たちの「居場所」提供の意味がよりはっきりしたというわけである。この1年を振り返り、課題として浮かび上がってきたことと、将来展望を踏まえ、今年度事業として強化していきたいと考えている2点について、簡潔に要点を書き記すことにする。まず昨年度1年の事業運営で浮かび上がってきた課題は、2つあったと言える。その1つは、職員の学習不足を上げなくてはならない。これは専門家としての学習と言うよりも職員は職員なので、職員として当然にその役目を果たさなくてはならないという自覚が希薄だったことと具体的な努力が明確になっていなかったことに尽きる。2つ目のことは、職員の仕事とは人が人に関わるのが仕事であるわけなので、人が苦しい時に持つ気持ち、辛い時に持つ気持ち、悲しい時に持つ気持ち、嬉しい時に持つ気持ち、楽しい時に持つ気持ち、これらは利用者という弱者ゆえに持つ気持ちとは違って、人間が様々な出来事や経験を通して普通に持つ気持ちをそのまま受け止めることが自然な人と人との触れ合いと言えるものなのに、それが職員の個性に全く委ねられてしまっていたため、かえって不自然に感じられることが多かったことである。この2点について、毎週輪読会を行うことと、各利用者を持つ職員それぞれの率直な感想を出してもらうことを通して、基礎的学習を行い底上げを図ることにした。

今年度の事業として強化していきたいと考えていることは、利用者ミーティングを定期的に行い、とかくおざなりになり易い日常生活の範囲を出ないことに流されない、生活に役立つための話し合いを行うようにすることと考えた。もう1つは、もっと楽しく、もっと面白く、もっとつらい事でも頑張っ、様々な生産的活動に取り組めるよう現在のいわゆる日課を変えていくことに挑戦することを考えた。特に、自主製品は頭打ちになっていて、工賃の支払いも伸び悩み全体の収益事業の見直しと、職員の機能的な働きを連動させる必要性が高まってきたことを強く感じるようになった。幸いにして利用者の増加は、順調に進み、それ故の効果効率的な働きが職員により強く求められるようにもなってきたのであった。今年度は、こうした幾つかの課題への取り組みを行い、その実績を示していかななくてはならないと考えている。

事業所名：メンタルサポートみこち

1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市逆川111-1
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行6名、就労継続B型14名）
- (5) 規模 建築面積 397.00㎡ 鉄筋平屋建て
- (6) 職員 常勤8名

2. 事業実施状況

	就労移行（6）	就労継続B（14）	就労定着	日中一時
開所日数	318日	318日	48日	165日
登録者数	2人	30人	3人	1人
1日あたりの平均利用者数	2.0人 (2.8)	15.5人 (15.8)	2人 (1)	1人 (-)
平均工賃（月額）	19,781円	10,203円		

	(13,138)	(10,008)	
--	----------	----------	--

3. 活動の成果と今後の課題

令和元年度は、就労定着支援の利用者が2名増えました。毎月1回以上の支援を続けています。就労移行支援サービスからは、1名の就職者があり、現在も継続しています。今後も、2年間という利用期限のある就労移行支援サービスの、新規利用者に来てもらうことが課題です。職員は、令和元年度に2名、新たに就職しました。新しい利用者も増えました。長年の職員が退職し、「今までと雰囲気がちがう」と話す利用者もいます。変化があったことそのものよりも、今まではなんとなく察してひと声かけることができていたことが、そうではなくなり、どちらかといえば機械的で刹那的な雰囲気になってしまうことが問題です。利用者がことばで語っていることと思いは一致しているのか、なぜそのような表現をするのか。利用者一人ひとりの過去、現在、未来をどう一緒に考え支援につなげるのか。それができるようになるために、職員がどう自己研鑽をするのか。昨年度の目標に掲げた「適切な支援ができる」ことについては、改めてしっかり考えなおす必要があると感じました。

事業所名：居処どこでも

1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽 5372-28
- (2) 種別 自立訓練（生活訓練）、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（自立訓練（生活訓練）6名、就労継続B型14名）
- (5) 規模 建築面積 111.79㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤 4名、非常勤 1名

2. 事業実施状況

	就労継続B（14）	自立訓練（6）	備考
開所日数	313日	313日	
登録者数	18人	0人	
1日あたりの平均利用者数	9.3人 (10.2)	0人 (0.6)	
平均工賃（月額）	13,964円 (10,799)		

3. 活動の成果と今後の課題

H30年度からの利用者の減少傾向を踏まえ、利用者を増やし事業を安定させていくことを第一の目標としてスタートした1年でした。安定した通所が難しい利用者さんに対して訪問等を通し関わる機会を持つようにしたことで利用中断者が出なかったことは、成果と言えるかもしれません。

一方で、新規利用者の獲得の伸び悩みは続いています。磐田市や袋井市などに比べ周辺人口が少なく事業対象者の全体数が少ないことを考慮しても、見学者から「選ばれない」状態からは脱却しなくてはなりません。年度途中で複数年勤務していた職員が退職するなど、事業所としてのまとまりのない雰囲気も影響していたと思います。令和2年度は新しい職員で臨む1年となります。利用者さんに「受け止めてもらえた」と思ってもらえる支援ができるよう、職員1人1人の支援力向上の基盤を整えること、それを土台に新規利用者獲得を持ち越し課題として取り組んでいきます。

事業所名：はたらき

1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-16
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00

- (4) 定員 20名（就労移行 6名、就労継続B型 14名）
- (5) 規模 建築面積 313.64㎡ 木造 2階建
- (6) 職員 常勤 7名、非常勤 4名

2. 事業実施状況

	就労継続 B (14)	就労移行 (6)	日中一時
開所日数	320日	320日	320日
登録者数	30人	6人	13人
1日あたりの平均利用者数	16.8人 (16.6)	2.8人 (3.7)	1.9人 (1.1)
平均工賃 (月額)	11,322円 (10,975)	11,946円 (12,681)	13,886円 (1,872)

3. 活動の成果と今後の課題

平成 31 年度は職員の退職に伴い、業務分担の変更をし、お弁当事業の継続のために多くの力を費やしました。はたらきの中心的な事業として、利用者、職員が共通して認識し取り組むことになりました。また、少しずつ増え続けていた利用者は昨年度満杯になりました。ほぼ毎日、定員いっぱいの人数が通所している状況になりました。平成 31 年度、はたらきは多くなったの利用者への対応と、お弁当作り、配達に追われる日々を過ごすことになりました。

その中で感じたきたことは、『働く』ということを強調すればするほど職員と利用者の関係は「教える人」「教わる人」、「指示する人」「従う人」、「指導する人」「される人」というものに終始して、閉塞感漂うものになっていくということでした。指示に従い、坦々と一日を過ごすことは、規則正しい生活といえそうです。安定した生活とさえいえるかもしれません。しかしそれは一人一人が自分の人生に責任を持ちその人らしく生きることとはほど遠いように思うのです。ここで出会った人と人が人間らしい関係を築いていくことを一人一人が考えていかななくてはなりません。

はたらきに通う人たちは、偏りや拘りがあっても、激しくぶつかり合い、そこから自分の気持ちを表現したり、折り合いをつけたり、人との付き合いを学んでいくということは起こりにくい人たちであるように感じています。一人一人の気持ちに寄り添い、言葉にし、理解し合うことを丁寧に行っていかななくてはなりません。

事業所名：作業所いつでも

1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市藺ヶ谷 630-2
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行 6名、就労継続B型 14名）
- (5) 規模 建築面積 143.77㎡ 木造 2階建
- (6) 職員 常勤6名、非常勤 1名

2. 事業実施状況

	就労移行 (6)	就労継続 B (14)	備考
開所日数	310日	310日	
登録者数	4人	28人	
1日あたりの平均利用者数	1.03人 (0.4)	10.8人 (5.4)	
平均工賃 (月額)	7,186円 (4,023)	5,122円 (3,948)	

3. 活動の成果と今後の課題

開設して 2 年が過ぎた。

開設当初から計画に掲げている、居場所的雰囲気大切にしながら活動するという目標は

今年度も概ね達成できたと感じている。近くにみこちがあり、バックアップを受けられ、協力できることは大きかった。具体的には請負作業だけでなく、施設外作業にも加えてもらうようになった。施設外支援から1名は職場復帰を果たすことができた。

利用者についてはサービスになかなか乗れずに家で引きこもっているような方に加えて、他の事業所で利用を継続できない方や社会的入院といわれる長期入院の利用者も医療機関や相談支援事業所と連携し利用に結び付いた。現在利用者は合計32名まで増え、ゆっくりではあるが着実に増えてきている。

特徴としては年齢層が高い利用者が多いことは変わらないが、20代の利用者が入り、次年度より特別支援学校の卒業生も入ることになった。またダイレクトBや実習で特別支援学校の在校生も増えてきた。

作業については内職が中心となっているが、農作業については、少しずつ参加利用者も増え、無人販売所やみこち弁当への納入など売り上げも上がってきている。また草刈りや片づけ作業も数は少ないものの定期的に入ってきている。

今後については内職だけで工賃を稼ぐことには限界があることは職員皆思っている。そのため、現在行っている畑作業の拡大及び販路の拡大（具体的に無人販売所を増やす）。もうひとつは、草刈りや片づけの外作業を増やす。実際に施設外には至っていないが、昨年度途中から始めた内職を企業内でやることもしくは別の企業での施設外を具体的にしていきたいと考えている。

事業所名：えひめ

1. 事業所概要

- | | |
|---------|---------------------------------|
| (1) 所在地 | 磐田市蛭池 266-1 |
| (2) 種別 | 就労移行、就労継続B型、自立訓練（生活訓練）、日中一時 |
| (3) 営業日 | 月曜～土曜 9:00～16:00 |
| (4) 定員 | 30名（就労継続B型 18名、就労移行 6名、自立訓練 6名） |
| (5) 規模 | 建築面積 418.0㎡ 木造 2階建 |
| (6) 職員 | 常勤 12名、非常勤 1名 |

2. 事業実施状況

	就労B(18)	就労移行(6)	自立訓練(6)	日中一時	備考
開所日数	314日	314日	314日	314日	
登録者数	23人	9人	11人	3人	
1日あたりの平均利用者数	3.5人 (3.6)	10.2人 (0.5)	5.7人 (2.5)	0.02人 (0.04)	
平均工賃(月額)	5,683円 (5,683)	9,618円 (5,337)	4,884円 (2,958)	1,632円 (2,618)	

3. 活動の成果と今後の課題

事業開始から2年が経過しました。年度末の2月から施設長が交代したこともあり、職員も利用者も雰囲気の変化を敏感に感じ取って落ち着いたままの年度末となりました。

「えひめ」は発達障害を持つ人たちの特徴を最大限考慮に入れ生活支援を行うことを目標に活動してきました。当初心配していた利用者の人数も増え、それと同時に年齢層の幅が広がり、利用者の特性也多岐にわたるようになり、外国の文化や習慣にも触れざるを得ないようになりました。作業内容も内職などの軽作業や昼食作り、農業の手伝い、お弁当作りやその配達、パンの製造及び販売と増えてきました。余暇活動としてスポーツやお菓子作りなどにも挑戦しました。利用者の就労に直接結び付けられるのはもっと先になりそうですが、作業を通して自分の得意なことや苦手なことを確認したり、新たな可能性を見つけたりしながら、定期面接で振り返りをしています。何より障害の特性と日常生活のつまずきを結び付けて考えられるようになることが今後の課題です。

同時に発達障害であるがために必要な学習を行ってもらうことも続けてきました。週1回の勉強

会を通して『自分の障害を正しく理解する』ことを目標にしています。毎回参加するという人が、数名ですが出てきました。

今後は利用者だけでなく職員も、障害の勉強を通して自分自身と向き合ったり、一人では足りない部分を補い合ったりしながら、利用者・職員が相互に協力し合って『えひめ』をつくり上げていくことが目標です。

事業所名：あぼかど

1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市蛭池 267-1
- (2) 種別 共同生活援助、短期入所
- (3) 営業日 年中無休
- (4) 定員 共同生活援助 7 名、短期入所 2 名
- (5) 規模 建築面積 249 m² 木造 2 階建
- (6) 職員 常勤（兼務） 8 名

2. 事業実施状況

	共同生活援助 (7)	短期入所 (2)	備考
開所日数	366 日	366 日	
入居者数、登録者数	5 人	7 人	
稼働日数	366 日	89 日	
稼働率	95% (67)	24% (0.1)	

3. 活動の成果と今後の課題

ここ 1 年入居者の入れ替わりはあったものの、3 月末現在は入居者が 7 名で全室が稼働していました。そして全員が何れかの就労訓練系の事業所を利用していました。ショートステイも定期的に利用する人が出てきました。

入居者は自炊する人もいれば薬の管理が必要な人、ともすれば自室にこもりがちになってしまう人、夜遅く帰ってくる人など生活スタイルも様々です。

生活支援員は朝夕の食事作りを中心に、利用者が夜は休み、入浴をはじめ洗顔や歯磨き、洗濯やごみ捨てなどの日常生活を規則正しく自分でできるようになるような関りを心がけてきました。昨年も課題になった“独立性の高い個室ゆえに利用者相互の関りがどうしても薄くなる”ことも、ミーティングの機会を設けてお互いの気持ちを話すことで、相容れるところまではいかなくても「この人はこういう考えを持っているんだ」ということが分かるようになってきたと感じます。

開所から 2 年が経過しました。入居者がこれで落ち着いたわけではありませんが、今後は入居者だけのことではなく、生活区域である地域とのつながりも考慮しながら運営をしていくことが課題です。

事業所名：あぼろん

1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2672-16
- (2) 種別 共同生活援助、短期入所
- (3) 営業日 年中無休
- (4) 定員 共同生活援助 7 名、短期入所 2 名
- (5) 規模 建築面積 249 m² 木造 2 階建
- (6) 職員 常勤 8 名（兼務）

2. 事業実施状況

	共同生活援助 (7)	短期入所 (2)	備考
開所日数	366 日	366 日	

登録者数	7人	10人	
稼働日数	366日	169日	
稼働率	90%	46%	

3. 活動の成果と今後の課題

グループホームの運営も2年近くなって、「あぼかど」と「あぼろん」の違いは、入居者が醸し出す雰囲気や利用者の個性によるものだけではなく、そもそもの鍵の保管の仕方や世話人同士で話し合ったり共有したりする具体的内容が違うということ。また「あぼかど」は「えひめ」に隣接しているなのでその善し悪しははっきりしてきたように思える。一方、「あぼろん」は、「生活支援センター袋井いろいろ」、「はたらき」、「学び舎あいまいもこ」の近くではあるが、隣接していないことによって、グループホームを利用する利用者の意識の持ち方が、その目的性を自ずと明確化しないとグループホームで過ごすことが難しくなることも分かってきた。こうした両者の違いだけでなく、統合失調症の人は、発達の課題を持つ人たちと異なって、余りにも独立性の高い部屋で生活し続けると多分、疎外感を感じ始め被害的内容を伴った妄想を持ち始めることも分かってきた。独立性の高い部屋の集合体として運営している「あぼかど」、「あぼろん」は、発達障害を抱えている人たちにとって、その時の気分に応じて心的距離を取り易い建物構造になっているので、こうした特性を踏まえながらそれぞれのグループホームの利用を考えた方がよさそうだということも分かってきた。そのように考えると、「あぼかど」と「あぼろん」だけでは、グループホームの数としては到底足りないことも分かってきたので、受け入れ強化を推し進めたい所である。そのためには、世話人によって貰える人の確保が急務となるので、関係者に広くお願いをしなくてはならないと考えている。

相談支援事業

事業所名：生活支援センターいろいろ

1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市見付 5883-5
- (2) 種別 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業・指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～金曜 8:30～17:30
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 78.66㎡ 木造2階建 (学舎いろいろ内)
- (6) 職員 常勤1名

2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	259日	
年間計画作成数	196件 (120)	(モニタリング含む) うち児童1件

3. 活動の成果と今後の課題

基本的には福祉サービス利用者の計画作成・モニタリングを継続的に行っています。サービス種別によってモニタリング頻度が増えた方やモニタリング加算により作成数が増えています。計画相談としての課題は、関係機関との連携を密にしていくこととインターク・アセスメントの活用についての取り組みを進めることです。

事業所名：生活支援センター袋井いろいろ

1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-16
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（袋井市委託事業）
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援

- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～19:00 時間外は転送電話にて対応
 (4) 定員 なし
 (5) 規模 建築面積 151.0㎡ 木造平家建
 (6) 職員 常勤4名、非常勤2名

2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	365日	316日		
年間実利用者数	147名 (150)	61名 (71)		
年間延件数、利用者数	3,469件 (4,118)	5,106名 (6,078)		
1日平均件数、利用者数	9.5件 (11.3)	16.2名 (19.6)		
年間計画作成数			305件 (289)	(モニタリング含、うち児童12件)

3. 活動の成果と今後の課題

すべての事業において発達障害やその傾向の強い方たちがとても多いことが感じられる1年でした。病名だけではわからないその方が持っている特性や生活のやりづらさを踏まえて関わっていくことを心がけてきました。発達障害についてはまだまだ知識不足のため、さらに理解を深めていかなければならないと感じています。家族全体が問題を抱えているケースが多いため、親としての悩みや本人と関わる時にはどうしたら良いかなど、親の気持ちを受け止めながら、家族学習会を始めしていくことを考えています。

また、障害者やその家族が高齢化してきているため、高齢分野との連携も課題の一つです。

地域活動支援センターは日々利用者と一緒に活動することを大切にしています。塗り絵や間違い探しなどをやりたいという意見を取り入れ、楽しく活動しています。毎日の送迎や昼食作りも継続して行っています。利用者の大半が中高年のため、いろいろな世代の方に安心して過ごしてもらえる居場所を作っていきたいと思っています。

事業所名：生活支援センターいつでも

1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市藺ヶ谷 630-2
 (2) 種別 指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
 (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:00 時間外は転送電話にて対応
 (4) 定員 なし
 (5) 規模 建築面積 143.77㎡ 木造2階建
 (6) 職員 常勤1名、非常勤1名

2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	258日	
年間計画作成数	506件 (160)	(モニタリング含む)

3. 活動の成果と今後の課題

計画相談の作成を主に行った。今まで継続して関わってきた方の計画や掛川市内の事業所の計画を中心に作成した。相談支援専門員がほぼ1人で行うため、件数的には現状では一杯一杯の状況となっている。また困難事例と言われる方の対応も増えてきているように感じている。

事業計画に上げた医療機関など各関係機関との連携はしてきたが、本人・家族の高齢化に伴い、

介護保険への移行・併用などの事例もある。

今後も、各関係機関との連携をより密にして支援を行っていかうと考えている。

事業所名：生活支援センターいつでも おまえざき

1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽 6171-1 御前崎支所 3階
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（御前崎市委託事業）
指定特定相談支援事業、指定一般相談支援事業、指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～17:30 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 御前崎支所 3階
- (6) 職員 常勤2名、非常勤1名

2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用 計画作成数	備考
開所日数	365日	310日		
年間実利用者数	123名 (118)	名 (53)		
年間延件数、利用者数	2,780名 (3,047)	2,105名 (1,598)		
1日平均件数、利用者数	7.6件 (8.3)	6.8名 (5.2)		
年間計画作成数			93件 (45)	(モニタリング含む)

3. 活動の成果と今後の課題

前年度の活動を土台に、特に地域活動支援センターについては職員間でも話し合い関わり方をより意識するようになった1年でした。地域活動支援センターの利用者さんは年齢も利用目的も様々です。余暇的な活動プログラム中心だった運営から、日々の中で思いを受け止めたり後押しをしたりしながら一緒に過ごす関りが持てるようになったことは今後につながる成果と言えます。集う人が増え、ニーズはますます多様化しているように感じます。この流れを大切にしながら、利用者自身がたくましく前向きに生きる力をつけていける方向に、利用者ミーティングや学習プログラムなど新たな活動を取り入れていきます。なお、せっかくの流れが拡散してしまわないよう、職員同士も継続的な話し合いや学習会を通して支援の方向性を共有していくことが今後の課題となります。

事業所名：生活支援センターいつでももり

1. 事業所概要

- (1) 所在地 周智郡森町森 962-3
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（森町委託事業）
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:30 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 91.07㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤3名、非常勤2名

2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用 計画作成数	備考
開所日数	366日	262日		

年間実利用者数	80名 (70)	41名 (33)		
年間延件数、利用者数	4,603件 (3,309)	2,270名 (1,717)		
1日平均件数、利用者数	12.6件 (9.1)	8.7名 (6.6)		
年間計画作成数			61件 (50)	(モニタリング含む)

3. 活動の成果と今後の課題

生活支援センターいつでももりが関わる人は、福祉課からの紹介で比較的年齢が高い方が多いということが昨年の活動で感じたことです。地域活動支援センターの利用者は10代から70代と幅広いですが、割合としては圧倒的に高齢の方が多いです。相談や計画作成で関わる方も40代以上の方が多くなっています。親が高齢になり、今までの生活が維持できなくなったことで相談につながる事例がいくつかありました。問題を先送りにしていた方が動き出したようで、今後もこのような方は多く出てくると予想されます。単に医療や福祉サービス利用を調整するのではなく、ライフステージの変化に合わせて新しい生活が作れるように支援していかなければいけません。森町では福祉課が子供からお年寄りまで大方のことを把握していますので、その人、その家族にあった支援ができるよう関係者と協力できるような体制を作っていきたいと考えています。

事業所名：相談えひめ

1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市蛭池 266-1
- (2) 種別 指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:30
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 313.64㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤2名

2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	262日	
年間計画作成数	419件 (99)	(モニタリング含む)

3. 活動の成果と今後の課題

開所2年目は怒涛の1年であったように思われます。昨年度に引き続き、磐田市内に住所を持つ人たちからの、いわゆる困難事例が多かったことや、県内又は県外からのケースの紹介もあり、あちらこちらに走り回るという現状になってしまいました。また、児童を含め当事者とその家族をもケース一体としてニーズに答えなくてはならないような現状が多々ありました。計画相談のみならず、磐田市から委託を受け活動を行っている磐田市相談支援センターと連携して活動する事も多くありました。今後も発達障害児・者と親子の関係性が大きく問題になって来るのではないかと思います。その中で相談員がどのように関わっていくか、相談員の勉強も必要だと大いに感じています。

日中一時支援 ※公益事業

事業所名：ごん太

1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市浅羽 1912

- (2) 種別 日中一時支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～16:00
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 43.0㎡ プレハブ
- (6) 職員 あいまいもこと兼務

2. 事業実施状況

	日中一時	
開所日数	0日 (0)	
1日あたりの平均利用者数	0人 (0)	
1ヵ月あたりの平均利用者数	0人 (0)	

3. 活動の成果と今後の課題

「ごん太」を休止状態にしてから3年弱が経った。現在、利用者はいない。そろそろどうするかを決めなくてはならないだろう。法人全体のまとまりが悪いわけではないが、全体状況について冒頭で触れたような事情もあるので、私たちが何を意識しながら活動するか、そのことに、このごん太の位置付けも絡んでいるということになる。

平成 31 年度 社会福祉法人ひつじ事業報告附属明細書

該当事項ありません。